



セルフ省エネ診断ツール 利用注意点説明

令和8年1月
埼玉県環境部温暖化対策課

1. ファイル取り扱い初期の注意点

「セルフ省エネ診断ツール」はVBAコードを有する(ファイル名の拡張子が.xlsxmのファイル)ため、セキュリティ制限で操作ができなくなる場合があります。そのため、ツール機能を利用するにはツールファイルの設定、場合によって、お使いのExcelの環境設定が必要となります。

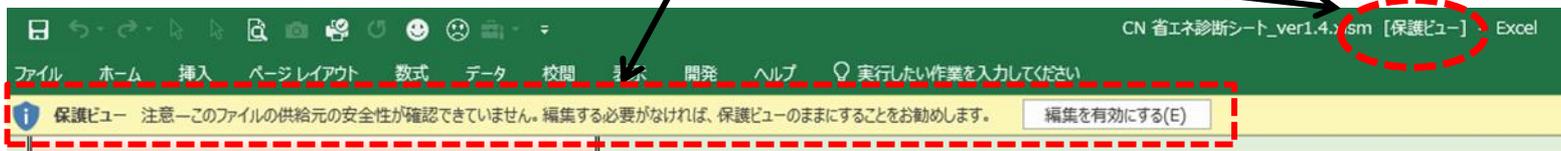
■ファイル初期対応

- ・ファイルダウンロード方法
- ・マクロ有効化
- ・ファイル保管フォルダ位置

× 【注意】ブラウザ版Excel (Excel for Web/Excel Online)をお使いの場合は、本「セルフ省エネ診断ツール」は利用できません。

ツールファイルのダウンロード方法

ネット上の“保護ビュー”状態では、ツール機能は利用できない。
ファイルをPC上のデスクトップ等の適当な場所にまずダウンロードし、ファイルのプロパティからアクセス許可を行う。その後、ファイルを開いて使用する。

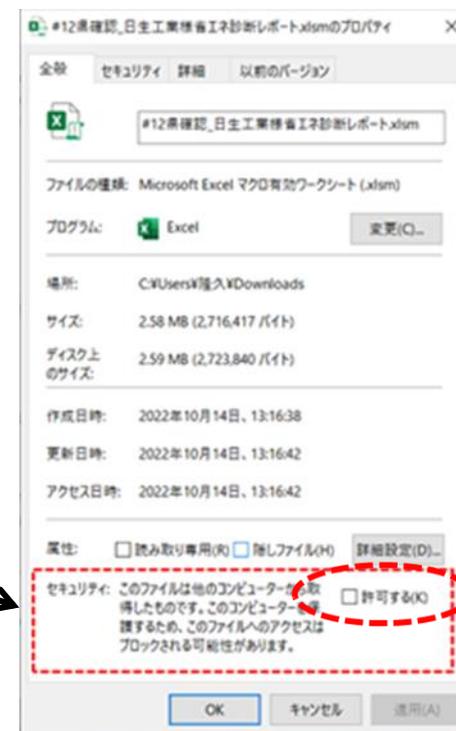


《ファイルのアクセス許可》

- ① ネットからファイルを直接開かずに、そのままPCのフォルダ等に「保存」する。
- ② ファイルアイコンを右クリックし、“プロパティ”の全般（右図）を開く。
- ③ セキュリティの説明欄の”許可する”に✓を入れて、「OK」にする。

※【ファイルのプロパティにく図】のセキュリティの表示が出ない場合】

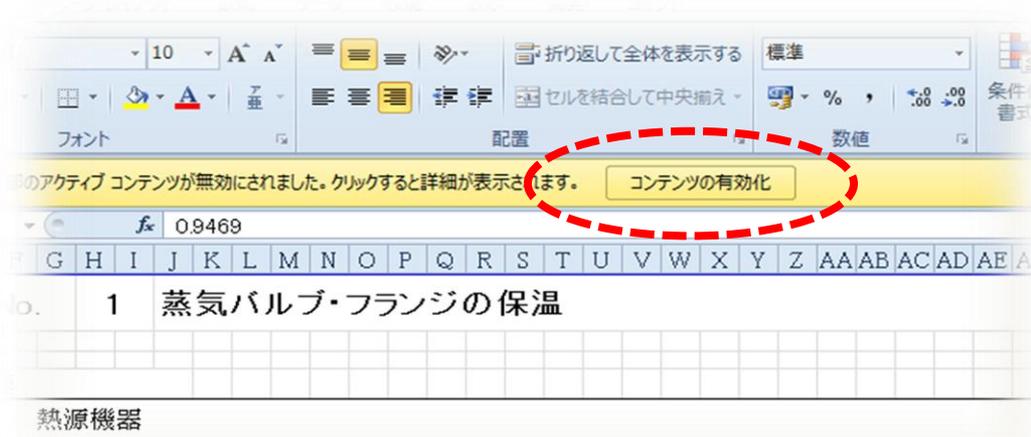
- ① 一度、保護ビューでファイルを開いてから保存すると、うまくいかない。
- ② zipファイルは一度展開したファイルで操作する。



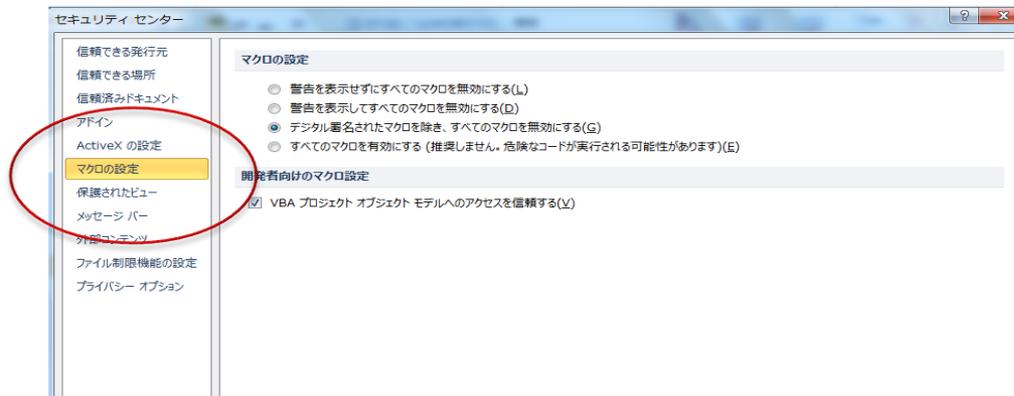
マクロの有効化

《主な方法》

- ・ ファイルを開いた際、セキュリティの警告が表示《コンテンツの有効化》をクリックする。



- ・ 《ファイル》 ⇒ 《オプション》 ⇒ 《セキュリティセンター》 ⇒ 《セキュリティセンターの設定》 ⇒ 《マクロの設定》 ⇒ マクロを有効化する。



ファイルの保管フォルダ位置

事	例	ツールのボタン操作をしても反応しない。		
問	題	Windows(11)が扱うファイルパス名はドライブ名から含め、通常最大260文字程度と制限されており、マクロ上でのデータ操作ができなくなる場合がある。 マクロ付きファイルをフォルダ階層の深い位置に保存している場合、ドライブ名からのファイルパス名が長すぎると、OSのファイル操作はフルパス名で行うため、ファイルの読み込み認識ができなくなる。		
対	処	方	法	・マクロ付きファイルをデスクトップなど、フォルダ階層の浅い箇所に保存して利用する。



エクスプローラの上段窓をクリックすると、パス名が表示される。

*ファイルパス名例: C:\Users********\【*****】温暖化対策課¥R07年度¥中小担当¥***¥:.... ¥省エネ**¥マイファイル

ファイルフォルダの階層が深すぎて、¥C以下のフルパス名が長すぎる！

× 【注意】 サーバシステムのセキュリティ等により、マクロVBAコードファイルが消失したファイルではツールの機能は利用できない。
再度ダウンロード等をおこないファイルを入手する。

2. ファイル取り扱い中の障害対応

■マクロ警告時の対応

- ・ファイルアクセス許可
- ・信頼できる場所の追加
- ・計算設定の自動化
- ・Active Xコントロールの設定
- ・アプリの定期更新後の障害

ファイルアクセスの許可

- ・事例: 開いたファイルブックに<図1>の「セキュリティリスク」が表示され、マクロ有効化しても、マクロが使用できない。
- ・問題点: マイクロソフトのOfficeアプリのセキュリティ強化により、ネットからのマクロ付Excelファイルなどを、既定でマクロがブロックされるようになったのが原因。ファイルの「Mark of the Web(ネットからのダウンロードファイルであることを示す情報)」を消さないで、ファイルのマクロが使用できない。
- ・対処方法: 《ツールのダウンロード方法》と同様の方法で、ファイルのアクセス許可を行う。



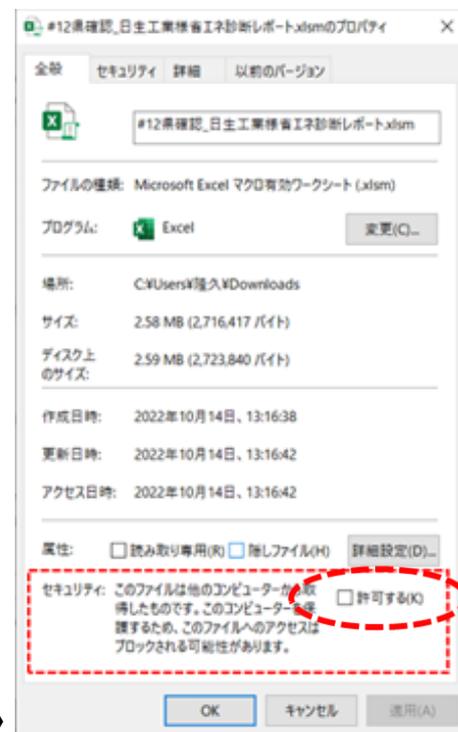
<図1>

- ① ネットからファイルを直接開かずに、そのままPCのフォルダ等に「保存」する。
- ② ファイルアイコンを右クリックし、「プロパティ」の全般<右図>を開く。
- ③ セキュリティの説明欄の「許可する」に✓を入れて、「OK」にする。

※【ファイルのプロパティに<図2>のセキュリティの表示が出ない】

- ① 一度、保護ビューでファイルを開いてから保存すると、うまくいかない。
- ② zipファイルが展開されていないと、表示されない。

<図2>



信頼できる場所を追加

ファイルを「信頼できる場所」に保管し使用すると、マクロが有効化できる。使用するフォルダが「信頼できる場所」に無い場合、追加する。

- ① 「ファイル」 ⇒ 「オプション」 ⇒ 「*トラストセンター」 ⇒ 「*トラストセンターの設定」に移動。
(もしくは「ファイル」⇒「情報」⇒「トラストセンターの設定」)
 - ② 《信頼できる場所》 ⇒ ③ 《新しい場所の追加》 ⇒ ④ 《参照》から、¥Desktopや¥Documentsなどを設定し、OKする。
- * 《セキュリティセンター》と表示の場合もある。

トラストセンター

信頼できる発行元 ②

信頼できる場所

信頼済みドキュメント

信頼できるアドイン カタログ

アドイン

ActiveX の設定

マクロの設定

保護ビュー

メッセージ バー

外部コンテンツ

ファイル制限機能の設定

プライバシー オプション

フォームベースのサインイン

警告: これらの場所はすべて、ファイルを開くのに安全な場所であると見なされます。場所を変更または追加する場合は、その場所が安全であることを確認してください。

パス	説明	更新日
ユーザー指定の場所		
¥¥ls520d674¥¥中小担当¥		2025/01/08 15:53
C:¥Users¥K01163¥Desktop¥		2024/12/18 8:27
C:¥Users¥K01163¥Documents¥		2024/12/18 8:26
C:¥Program Files¥Microsoft Office¥root¥Office16	Excel の既定の場所: Excel スタートアップ	
C:¥Users¥K01163¥AppData¥Roaming¥Microsoft	Excel の既定の場所: ユーザー スタートアップ	
C:¥Program Files¥Microsoft Office¥root¥Office16	Excel の既定の場所: Office スタートアップ	
C:¥Users¥K01163¥AppData¥Roaming¥Microsoft	Excel の既定の場所: ユーザー テンプレート	
C:¥Program Files¥Microsoft Office¥root¥Templat	Excel の既定の場所: アプリケーション テンプレート	
C:¥Program Files¥Microsoft Office¥root¥Office16	Excel の既定の場所: アドイン	

ポリシーによって設定された場所

パス(P): C:¥Users¥K01163¥Desktop¥

説明(D):

更新日: 2024/12/18 8:27

サブフォルダー: 不許可

③

新しい場所の追加(A)... 削除(R) 変更(M)...

自分のネットワーク上にある信頼できる場所を許可する (推奨しません)(W)

すべての信頼できる場所を無効にする(D)

Microsoft Office の信頼できる場所

警告: この場所は、ファイルを開くのに安全な場所であると見なされます。場所を変更または追加する場合は、その場所が安全であることを確認してください。

パス(P)

④

C:¥Users¥K01163¥Desktop¥

参照(R)...

この場所のサブフォルダーも信頼する(S)

説明(D):

作成日時: 2025/07/16 10:03

OK キャンセル

計算設定の自動

《計算方法の設定》

本ファイルの計算機能を利用する場合、Excelの計算方法の設定が”自動”である必要がある。（通常はデフォルト設定は”自動”）
もし、数値を入力しても計算結果が変わらない場合は、以下の方法で設定を確認すること。

①「ファイル」⇒②「オプション」⇒③「数式」⇒計算方法の設定が④「自動」となっているか

① 「ファイル」

② オプション

③ 数式

④ 自動(A)

数式の計算や処理、エラー処理に関するオプションを変更

計算方法の設定

- ブックの計算 (A)
- テーラ テーブル以外自動 (D)
- 手動 (M)

ブックの保存前に再計算を行う (W)

数式の処理

- R1C1 参照形式を使用する (R)
- 数式オートコンプリート (E)
- 数式でテーブル名を使用する (I)
- ピボットテーブル参照に GetPivotData 関数を使用する (P)
- 以前のバージョンの Excel でサポートされている数式のバリエーション

Active Xコントロールの設定

事例	“Active X(マイクロソフト開発のUI用部品)がブロックされます”などの警告文が表示される。 
問題点	マイクロソフトのセキュリティ強化により、最新のOffice356やOffice2014では、ActiveXがデフォルト設定では利用できなくなった。(上記の警告文も表示されない場合もある)
対処方法	オプションのトラストセンターから「ActiveXの設定」を開き、Active Xコントロールを有効に設置する。

「ファイル」⇒①「オプション」⇒②「トラストセンター」⇒③「トラストセンターの設定」を開き、④「ActiveXの設定」から ⑤「…コントロールを有効」を選択しOKする。



The image shows a sequence of steps to enable ActiveX controls in Excel:

- ① In the "Excel のオプション" dialog, the "アドイン" (Add-ins) category is selected.
- ② The "トラストセンター" (Trust Center) option is selected in the left sidebar.
- ③ The "トラストセンターの設定(T)..." button is clicked.
- ④ In the "トラストセンター" dialog, the "ActiveX の設定" (ActiveX Settings) option is selected in the left sidebar.
- ⑤ The radio button "先に確認メッセージを表示してから、最低限の制限を適用してすべてのコントロールを有効にする(E)" is selected.

終わり